

平成 23 年度第 2 回 産業応用部門論文委員会主査会議 議事録 (案)

1. 日時 平成 23 年 6 月 14 日(火) 13:30-16:00

2. 場所 電気学会本部会議室

3. 出席者 (敬称略) : D1:2 名、D2:1 名、D3:3 名、D4:0 名、D5:2 名

竹下 (編修長、名古屋工業大学)、大石 (前編修長、長岡技術科学大学)、村上 (編修長補佐、慶應義塾大学)、木村 (D1 主査、大阪工業大学)、船渡 (D1 副主査、宇都宮大学、記録)、森本 (D2 主査、東海大学)、米谷 (D3 主査、三菱電機)、村井 (D3 副主査、東海旅客鉄道)、野口 (D3 次年度副主査、静岡大学)、亀井 (D5 副主査、三菱電機)、近藤 (D5 次年度副主査、千葉大学)

欠席 : 綾野 (D1 次年度副主査)、山口 (D2 副主査、リコー)、道木 (D4 副主査、名古屋大学)

4. 提出資料

23-2-0 議事次第 (船渡)

23-2-1 前回議事録 (案) (船渡)

23-2-2 電子査読システム運用状況 (村上)

23-2-3 J-Rail 特集号査読状況【回収】(近藤)

23-2-4 「超音波レーダを用いた独居老人高齢者用安否確認システム」に対する討論および回答 (村上)

23-2-5 論文委員候補推薦用紙 (村上)

23-2-6 JICEE 日本編修委員選定のお願い (竹下)

23-2-7 電気学会産業応用部門ニュースレター原稿 (竹下)

23-2-8 主査会役割分担表 (村上)

5. 議事

5.1 議事録確認 (資料 23-2-1)

「5.7 論文委員候補者推薦」の文中、誤「論文就任」→正「論文委員就任」、誤「本来は幹事を 1 年」→正「本来は委員を 1 年」を修正の上承認された。

5.2 電子査読システム運用状況 (資料 23-2-2)

資料に基づいて村上編集長補佐から説明があった。英文誌は変わらず少なめであった。

大石前編修長から D 部門論文賞について、グループ分割に伴って 5 グループ 1 件ずつ+1 件と計算して最大 6 件してはどうか、との提案があり、審議の結果 6 件にすることとなった。具体的な割当については、論文数を確認してから議論することとなった。

5.3 特集号状況確認（資料 23-2-2, 23-2-3）

近藤 D5 次年度副主査（J-Rail 特集号ゲストエディタ）から資料 23-2-3 について説明があった。J-Rail 特集号については、13 件提出、内 1 件取り下げで現在 12 件が進行中である。

村上編集長補佐から資料 23-2-2 に基づいて他の特集号の状況について説明があった。IPEC 特集号は成立の見込みである。回転機特集号も多分大丈夫だと思われる。産業計測制御特集号、半導体電力変換研究会特集号について、査読者が中々見つからないという問題が発生している。今後、ゲストエディタに査読者候補を（参考資料として）出してもらう、などの対策を検討することとなった。その他、分野などの問題で査読が難しい論文については主査会で判断することが確認された。

5.4 紙上討論（資料 23-2-4）

資料に基づき村上編集長補佐から説明があった。掲載手続きを再度確認して、手続きに則り掲載することとなった。原則的には、著者に一度返して、討論を続けて最終的に討論が終了した後掲載する。議論が不成立の場合は、不掲載の可能性もあることが確認された。

5.5 論文委員推薦（資料 23-2-5）

村上編集長補佐から資料に基づき説明があった。提案通り 1 件が承認された。

5.6 JICEE 日本編修委員会（資料 23-2-6）

資料に基づき竹下編集長から説明があった。委員推薦の依頼に対して、D1～D5 の次年度副主査を推薦することとなった。

5.7 ニュースレター原稿について（資料 23-2-7）

資料に基づき編集長から説明があった。内容を確認の上、了解された。内容に関連して、投稿システムについて、キーワードが大変多く、かつ、グループ間で重複しているものがある、という問題提起があった。議論の結果、キーワードをグループ毎に整理する。システムの可能であれば、メインキーワードと、サブキーワードを決められるようにする、との結論に達した。

また、編集長からジャーナルのグローバル化に関連して D 部門の英文誌を独立させることに決定した、との報告があった。来年 7 月号を目処に、季刊で開始する予定である。当初はインセンティブが必要だと思われるので、今後議論することとなった。

5.8 主査会役割分担（資料 23-2-8）

資料に基づき村上編集長補佐から説明があった。前回主査会で議論した分担どおりであり、確認された。

関連して、編修長から研究調査運営委員会との連携を強化するため、委員を出したい、との提案があった。主な役割は特集号の企画依頼である。今年度は特例で近藤先生に委員として出席していただき、来年度以降 D4 副主査が編修広報委員会、D5 副主査が研究調査運営委員会に出席していただくこととなった。

5.9 査読フロー

査読フロー図が配布され、確認が行われた。何点か、フローがおかしい点があるので、修正の上再配布されることとなった。

関連して、木村 D1 主査から B 判定について、ある程度繰り返しても良いのかどうか確認があり、繰り返して良いことが確認された。

近藤 D5 次年度副主査から B 判定については D 部門査読マニュアルによると suggested 項目なので必ずしも修正しなくても良いことになっているが、学会の査読報告要領によると、B 判定は「回答の上で再度判定」という記述になっている。B 判定の記述・意識を統一する必要があるのではないか、との提案があった。報告要領の記述について修正が可能かどうか、査読システム上に D 部門査読マニュアルを掲載する等、査読者が誤解しないように措置可能かどうか、確認することとなった。

B 判定に関しては、論文掲載の「新規性」「創意性」「有用性」のどれか 1 つの条件を既に満たしたのが B、照会しないと満たしているかどうか判定できない場合は C 判定であることが確認された。

5.10 その他

森本 D2 主査から D2 では論文委員会が年 1 回だが、それで良いかどうか確認したい旨の発言があった。それに対し、編修長から可能であれば主査会 2 回に対し最低 1 回程度は開催して欲しい旨の依頼があった。その理由として Web 化して、査読割当が早くなることを期待したが、実際は遅くなっている。意識を高く持つためにも、できれば、実施してほしい、との説明があった。

5.11 次回予定

平成 23 年 9 月 8 日産業応用部門大会意見交換会終了後

以上